

視点ごとのあるべき案（基本方針案）

視点	背景となる現状の特性	WSで出た Key Word	A 案	B 案	C 案
人のつながり	<p>くらしやまちを豊かにつくるためには、市民や事業者がつながり協力しあうことが重要です。</p> <p>芦屋市では従来からの自治会活動が活発ですが、世代間のギャップや転入者が参加しにくいといった問題もあります。</p> <p>また、最近では地縁にとらわれない目的型の市民活動も盛んになっていますが、幅広い市民への周知・浸透や相互連携などの課題もみられます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆世代間交流 ◆新しいコミュニティ ◆ふれあい ◆助ける・助けられるの関係 ◆きっかけづくり ◆市民参画 ◆温故知新 ◆多様性 ◆ほどよい距離感 ◆他市との交流 ◆居場所 ◆自治会 ◆顔の見える ◆協働 	<p>時代に適うネットワーク（でつながれるまち）</p> <p>ICTの発達やグローバル化が進み、急速に変化していく時代に今までと同じ人とのつながりはあり得ない。しかし、人が人として営んでいくにはつながりが必要であることには変わりない。また、市のあらゆる施策にも、コミュニティやつながりは重要なファクターを占める。</p> <p>今までの良さも認めながら、その時代、その地域に合った交流のあり方を築いていくことが重要である。</p>	<p>人と人、想いと力を「結ぶ」あしや</p> <p>年代や地域など立場の異なる様々な市民や芦屋に関わる人々が、顔の見える程良い距離でつながる開かれたコミュニティでの交流があり、人々のくらしやまちへの想いと行動する力が結びあわされて豊かな生活やまちづくりに発揮されるまち。</p>	<p>多様なつながりをつむぎ、芦屋を高める</p> <p>昔から続く地域コミュニティの良さを活かしつつ、暮らしの中の様々な場面で、世代や男女はもちろん、市民、行政などの立場を超えて、多様な人々が顔の見える関係を築くことで、まち全体に豊かなつながりが広がり、地域の力が高まるまちづくりを進める。</p>
暮らしやすさ	<p>安心便利に生活を送れる環境が整っていることは、安定した市民生活の基本です。</p> <p>コンパクトな都市・芦屋市は、鉄道・道路が発達し公共施設が充実した便利なまちですが、一方で地形やまちの成り立ちによって地域毎に特性があり暮らす市民も多様であり、それぞれのニーズに対応していく必要があります。</p> <p>また震災の記憶を継承しながら、様々な災害リスクへの対応なども求められています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆統一感 ◆災害への対応 ◆利便性 ◆多様性 ◆アクセスビリティ ◆子育て ◆住みたい・住み続けたい ◆官民一体 ◆情報発信の多様性 ◆滞在ニーズを届ける ◆行政 ◆安全安心 ◆コンパクト ◆健康 ◆多様なスタイル ◆移動のしやすさ ◆双方向コミュニケーション ◆地域格差がない ◆公共施設 ◆リノベーション 	<p>安らぎと包まりのデザイン（が行き届いたまち）</p> <p>どんな人にとっても安全であり、安心できることはまちづくりの前提条件である。</p> <p>そのうえで、まちには子どもから高齢者がいて、様々なバックボーンを持っており、さらにお互いに認め合い、共に生きていくようなまちのデザインが求められる。</p> <p>あらゆる人が安心して暮らしやすく、それぞれのスタイルで活躍できるようなまちづくりに目指して取り組んでいく。</p>	<p>日々の安心と暮らしやすさを「感じる」あしや</p> <p>市民の声とコンパクトなまちの特性をいかした、安心して便利に暮らすことのできる環境が、行政と地域の協働によってまちのどこにも整い、一人ひとりの健康とそれぞれが求めるライフスタイルを実現できるまち。</p>	<p>誰もが安心して住み続けられる芦屋をデザインする</p> <p>誰もが安心して住み続けられる芦屋をつくる豊かな自然や恵まれた住環境、交通利便性、コンパクトな地域性など芦屋の良さの中で、子どもから高齢者まで誰もがそれぞれのスタイルで誇りを持って、安心・安全に住み続けたいと思えるまちづくりを進める。</p>
資源	<p>地域にはハード・ソフトの資源があり、これがまちづくりの源泉となります。</p> <p>芦屋市は、山から海までの自然がそろう、各時代の歴史の舞台にも登場し、多くの文化人を生み出すなど魅力的な資源のあるまちです。そして整った街並みが芦屋のイメージをつくってきました。</p> <p>しかし、時代の変化につれて住宅地がマンションに変わるなど徐々にその姿を変えてきています。</p> <p>また、まちの魅力を市民があまり知らない、十分生かされていないという問題もあります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆今あるものを活かす(リノベーション) ◆新しいものと古いものの融合 ◆循環 ◆芦屋らしさ ◆未来 ◆伝統文化 ◆教育 ◆人材の発掘・育成 ◆人の充実 ◆芦屋スタイル ◆ニュー芦屋 ◆自然 ◆産業 ◆子ども 	<p>これまでとこれからの融合（から形作られるまち）</p> <p>伝統や文化、歴史的価値を持つものなど、今までにあったもので守らなければならないものが数多くある。一方、時代の変化により新たな考え方が生まれ、時には既存資源を破壊することもある。</p> <p>残すべきは残し、変えるべきは変え、また、リノベーションにより既存のものに新たな価値を加えるものなど、時代の変化を見極めて対応していく。</p>	<p>まちのたからを「活かす」あしや</p> <p>自然、歴史・文化、人、まちなみ、そして都市イメージなど、受け継いできた資源と新しい感性で創造された資源が調和した芦屋らしさが、人づくりや産業、観光交流などに活かされて、都市の魅力と市民の愛着・誇りが高まるまち。</p>	<p>古き良きものを活かし、新しい芦屋スタイルをつくる</p> <p>自然、伝統、文化、産業、まちなみなど、古くからある資源や、芦屋の良いイメージをみんなで共有し、大切にしながら育んでいくとともに、時代のニーズにあったものに変えていくことで、あらたな価値を生み出し、市民が誇りに思える、新しい芦屋スタイルをつくる。</p>
未来	<p>芦屋市の人口はまもなくピークを越え、少子高齢化はさらに進むと想定されます。これらの社会の変化を見据えながらまちづくりを進めることがますます重要になります。</p> <p>芦屋市を次世代に健全な姿で引き継いでいくために、まちや産業をどのように守り変えていくのか、まちづくりを担い、社会に貢献する人材をどう育てるのが課題となっています。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆共生 ◆新しいものと古いもののバランス ◆足りないものを補う ◆持続可能 ◆人口減少対策 ◆イノベーション ◆活気 ◆グランドデザイン ◆芦屋らしさ ◆協働 ◆ダイバーシティ ◆子ども ◆教育の充実 ◆産業の取り込み ◆夢と希望 ◆産業 ◆商業 ◆デザイン ◆芦屋スタイル 	<p>次代へつなぐ創造（による魅力あるまち）</p> <p>日本は、少子高齢化・人口減少局面を迎えており、世界でも類を見ない課題先進国である。本市においても人口構造が劇的に変化する局面を迎える中で、持続可能なまちづくりが求められる。</p> <p>まちは「今」だけではなく、これからも続いていく。人口が減少していく中でも、次代がワクワクできるまちにしていくために、時代に合った取組を進めていく。</p>	<p>今日から未来へ希望を「手渡す」あしや</p> <p>激しく変化する未来を切り拓いていく人を育てる力、まちを経営する負担の少ないしくみを市民・事業者・行政の連携で充実し、芦屋が持つ資産と成長する力を将来世代へと手渡すことで、いつまでも住み続けたいと思える持続可能なまち。</p>	<p>芦屋カラー（らしさ）を次世代につなげる</p> <p>市民と行政、企業、地域団体等オール芦屋で、まちの魅力をさらに高めていくことで、誰もが生涯にわたって学び、輝き、活躍でき、将来にわたって子どもたちが希望のもてる持続可能な、芦屋カラーが活きるまちづくりをすすめる。</p>